

1. 調査目的等

小・義務教育学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果

2. 学校ごとの指標

標準学力調査における、各学年の標準スコアの平均を50.0以上とする。

3. 指標にむけての取組

□指導方法工夫改善教員の効果的な活用

- ・算数科を中心とした習熟度別分割授業を実施する。
- ・単元を1サイクルとした短期検証⇒期待値通過率90%

□毎日の朝の活動を中心とした基礎基本の定着

- ・AIDリル「キュビナ」の活用
- ・MIMの実施
- ・フォローアップシートやチャレンジプリント等の活用
- ・読書活動の充実(新規)

□書く活動の充実

- ・授業において、「書く活動Point9」を積極的に活用し、自分の考えを根拠や理由を明確にしたり、条件に合わせて書いたりして表現する活動を設定する。

- ・自分の考えを書き、それをもとに考えを出し合う対話活動を設定する。

□家庭学習の習慣化

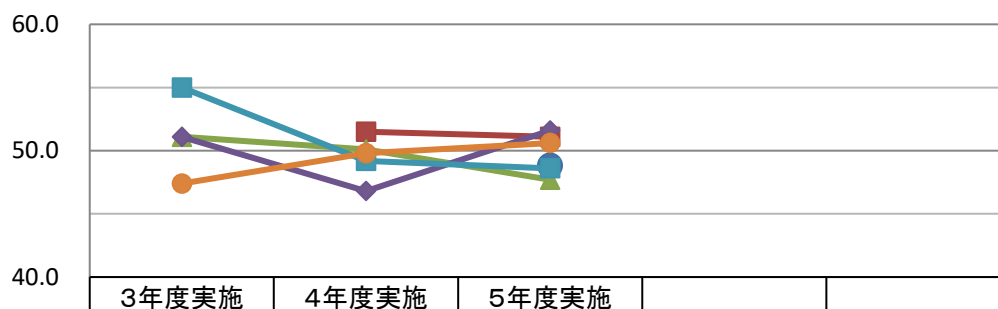
4. 調査結果

※学校平均(国語・算数)2年間の推移

(標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度	5年度		
本校(A)	48.9	49.7	49.7		
嘉麻市(B)	47.0	47.2	48.5		
(A) - (B)	1.9	2.5	1.2	0.0	0.0
全国値との差 (A) - (50)	-1.1	-0.3	-0.3	-50.0	-50.0

各学年の標準スコアの推移



	3年度実施	4年度実施	5年度実施		
5年度1年生			48.8		
5年度2年生		51.5	51.1		
5年度3年生	51.1	50.1	47.7		
5年度4年生	51.1	46.8	51.6		
5年度5年生	55.0	49.2	48.6		
5年度6年生	47.4	49.8	50.6		

5. 各学校における分析

○2・4・6年生において、標準スコアが学校指標を上回ることができた。特に、4年生は、3年生の時よりも国語・算数ともに大幅な上昇がみられ、標準スコア50を上回る結果となった。

○算数科において、単元構成を工夫しながら、担任と専科等の複数体制によって習熟度別分割授業を実施したり、形成的評価を行ったりしたことを通して、単元テストにおける目標値の通過率の向上を図ることができた。

【算数科単元テスト通過率の全校平均】1学期:92.5% → 2学期:96.2%

○毎週金曜日に、指導方法工夫改善会議を設定し、算数科単元テストの目標値の通過率の検証を行い、その会議内容を学年部会議において他の職員と情報共有したことによって、授業改善につなげることができた。

○朝の活動(火・木曜日)では、MIMカードの活用や過去の学力調査をもとにした問題、計算スキル等の練習問題を通して、読み・書き・計算の基礎基本の定着につなげることができ、MIM-PMテストでは総合点のクラス平均がこれまでの最高となった。

【1月時点のステージの割合】1st:96.1%、2nd:3.9%、3rd:0%

○自分の考えを根拠や理由を明確にしたり、条件に合わせて書いたりして表現する活動を設定したことによって、2・3・4・6年生において、国語の「書くこと」の領域において、全国平均を上回る結果となった。

●朝の活動(フォローアップシートやチャレンジプリントの活用等)の取組において、学級間で差が見られた。次年度は、全校統一した取組の徹底を図る。そのために、各学年週1回朝の活動に、語彙力や基礎計算力の向上や四則計算の確実な定着を図る時間設定をしていきたい。実施にあたっては、全学年の教職員で連携しながら、「未来への一歩」の活用の徹底、学期1回の確認テストの実施、テスト実施前に1～9年生全体で上級生が下級生を教える体制作り、個別指導を通したC・D層の底上げを行っていくようにする。

●AIDリル「キュービナ」の活用は定着してきている。しかし、家庭学習の課題として提示した際、問題文を読まず適当に解答したり、後の振り返りが不十分であったりするため、基礎基本の定着が結果として表れていない児童がいる。そのため、教職員が児童の進捗状況を把握し、「キュービナ」の活用の検証と改善を図っていく必要がある。

●家庭学習の習慣化については、日常的に家庭学習に取り組めていない児童がいるため、PTAの家庭教育支援事業「うすい家庭『共育』ノート」に取り組んでいき、習慣化できていない児童の固定化の解消を図っていきたい。

●読書活動の時間が十分確保できていない。朝登校してすぐの時間などに時間設定することを通して、文章に親しんだり、想像力を高めたりすることができるようにしたい。

6. 各学校における今後の取組

□指導方法工夫改善教員の効果的な活用

・算数科を中心とした習熟度別分割授業を実施する。(継続)

・単元を1サイクルとした短期検証【指導方法工夫改善会議】⇒期待値通過率90%(継続)

□毎日の朝の活動を中心とした基礎基本の定着

・AIDリル「キュービナ」活用についての検証と改善を図る。(新規)

・MIMの実施(継続) ・フォローアップシートやチャレンジプリント等の活用(継続)

・読書活動の充実(継続)

□書く活動の充実

・授業において、「書く活動Point9」を積極的に活用し、自分の考えを根拠や理由を明確にしたり、条件に合わせて書いたり、条件に合わせてたりして表現する活動を設定する。(継続)

・自分の考えを書き、それをもとに考えを出し合う対話活動を設定する。(継続)

□家庭学習の習慣化

・理解度に応じた学習内容の個別化を促進する。(新規)

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIDリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。

また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。